

海外の無電柱化事業に関する調査について

先日、経済産業省が海外の無電柱化事業の調査結果を公表されました！今回はその内容を簡潔にまとめたものをお送りいたします！

1、海外の無電柱化の方針について ※資料より表抜粋

| 項目 | 日本  | 英国  | フランス  | インドネシア  |
|-------------|---|--|---|--|
| 無電柱化に対する捉え方 | <ul style="list-style-type: none"> 「安全で快適な通行空間の確保」「良好な景観の形成や観光振興」「道路の防災性の向上」などを目的として実施 | <ul style="list-style-type: none"> 架空線は不必要なものと思われ、無電柱化が当たり前という認識 コストは高いものの、無電柱化は景観を高め、風雪災害に強く供給信頼度を向上させるものと認識 道路閉鎖の防止等、道路防災の観点で推進している訳ではない 無電柱化エリアは一旦停電すると復旧までの時間は長くなる | <ul style="list-style-type: none"> 無電柱化は当たり前という認識 コストの面では課題があるが、地中化は実施する必要がある 都市の景観を高め、人や自転車にやさしいまちづくりの観点などから推進されている 風雪災害に強く供給信頼度向上という観点もある パリなどの都市部では地震は発生しない | <ul style="list-style-type: none"> 州レベルで無電柱化を推進 ジャカルタ特別州では、景観や美観、都市の安全性の観点から地中化が望ましいと認識 |
| 無電柱化の推進方針 | <ul style="list-style-type: none"> 「無電柱化に係るガイドライン」による計画的な無電柱化の推進(無電柱化推進検討会議) 「社会資本整備重点計画」(H24.8.31閣議決定)において、「市街地等の幹線道路の無電柱化率」の目標設定 「経済財政運営と改革の基本方針2014(骨太の方針)」や「日本再興戦略」(各々H26.6.24閣議決定)にて無電柱化を推進 交通政策基本計画(H27.2.13閣議決定) | <ul style="list-style-type: none"> 送配電料金収入規制における収入査定の対象に景観や信頼度の項目があるため、無電柱化の促進に間接的に寄与 景観地域における既設架空線の地中化費用は、送配電料金収入規制の制度下でさらに一定額を需要家から回収することを認めており、配電会社は地中化を推進しやすくする | <ul style="list-style-type: none"> パリ市とERDFの契約において、新規配電線の無電柱化を義務づけ レンヌ市では、都市計画にもとづき無電柱化を進めている ※配電設備は自治体の資産となり、ERDFは配電設備の運営会社 ※ERDFは、すべての道路に配電設備を設置する権利を有している | <ul style="list-style-type: none"> ジャカルタ特別州では、州知事条例および州の地域空間計画で配電線を地中化する方針を明記して推進 歴代の州知事が景観に関心を持っており、重点地区(現在7地区、以前は9地区)を定め地中化を推進 |

★読み取れる日本との違いは、無電柱化の意識の違いですね。日本はまだ意識を植え付けようとしている中、やはり海外では当たり前の認識になっています。

2、設備の点での日本との違い

□ケーブルは、日本では導体に銅を用いているのに対し、他三カ国はアルミを用いています。一般的には電力用途のケーブルでは銅を主体として使用されていますが、超長距離送電線や配電線の分野では、送電効率に劣るものの比重が小さく重量が軽いアルミニウムが使用されています。地中化工事は大変なので軽量化したものを使うことで工事の促進を図っているのでしょうか。□地上機器について、日本は歩道の端に設置、基本的には他の国もそうだが、地中化するようにしている国もある。英国はロンドンでは通りに設置しない、公園やビルに民地に設置、地上機器はレンガ調など景観配慮に徹底しています。



↑英国の地上機器設置場所

「美空」に載せてほしい事、調べてほしい事等ありましたら info@nponpc.net までお送り下さい！
皆様のご意見、お待ちしております！ tel:06-6381-4000 Fax: 06-6381-3999(※番号変わりました)

日本の空を、安全・安心で美しく！

美空 ~MISORA~

第81号

発行日:2015年6月25日(月)
発行者:NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク
理事長 高田 昇

【活動報告】 ■理事会5月19日(金)18時～ COM計画研究所会

<技術開発委員会>井上理事:今期からの新たな活動項目として、新法成立後に向けた新手法の創出と検討を行っており、神戸の岡本商店街の無電柱化シミュレーションを作成中。現地調査の後、直埋の場合の平面図、断面図の作成。既存手法断面と直埋・浅埋を使ったNPO手法の断面図をまとめて、7月の推進展にパネル展示する予定。

伊津理事:札幌事務所立上げに伴う寒地土木研究所との協力体制について打ち合わせ中。井上事務局長:寒地土木との勉強会報告。寒冷地での浅埋、直埋の問題点、現行技術の状況の検証など

<世論形成委員会>中村理事:今期の活動予定について①セミナー開催(年3回目。会員にとってメリットのあるセミナーに)②ネットワーク作り③会員の拡大④キャンペーンの実施<事業協力委員会その他>

東京の理事会との連携、セミナー講師検討、法案の動向、無電柱の日「11月10日」のイベント内容等が話し合われた。その他としては、井上事務局長による明治大学無電柱化講義、低コスト手法技術検討委員会報告、新会員報告等がありました。概要記録の作成は前回800枚。推進展もあるので、今回は2,000枚印刷。

■東京活動委員会5月26日(火)19時～ 経団連会館8F 住友林業様会議室

<初参加者紹介>ミサワホーム/金子様

<理事会報告>総会法制化記念セミナー内容(講師等)、東京シンポ概要記録作成、埼玉県シンポジウム受注(日経広告社と共催)、無電柱の日のイベントについて(11・10)、無電柱化推進法の成立時期について、芦屋市無電柱化アドバイザー制度の打診の件、事務局員採用の件、無電柱化大学講義5/27

<活動委員会>伊津理事:5/11 寒地土木研究所との勉強会報告(札幌支部設立予定)

<話題提供>「第4回無電柱化低コスト手法技術検討委員会の概要について」有次氏

<東京理事会>今後の活動について(骨太活動方針案・合同理事会議題、大阪との連携、札幌の位置づけ)

◆次回の理事会の日程

■東京:6月18日(木)技術委員会 17時～
理事会 18時～ 活動委員会 19時～
経団連会館 8階住友林業会議室

■大阪:6月26日(金)合同理事会 15時～
総会 16時～ セミナー 18時～
ハートンホール毎日新聞社ビル B1F
交流会 20時半～ 都のかけはし



「無電柱化を考える」授業



2015年5月27日に明治大学中野キャンパスにおいて、同大学の建築学部の佐々木宏幸准教授の建築・アーバンデザイン研究室を対象に無電柱化に関する授業を行いました。

講師は井上事務局長。この授業では、無電柱化の歴史と日本の現状・無電柱化のメリット・コスト削減案・具体的な技法・無電柱化を推進する種々の運動について、データや実例を交えて紹介しました。

受講者のうち14名の方に、無電柱化活動や今回の授業に関するアンケートに回答して頂きました。今回はそのアンケートに書かれた意見をお伝えします。

◎意見調査 ～無電柱化に対する意識の変化～

授業を受ける前は、電柱は「ある方がいい」0人、「ない方がいい」9人、「わからない」5人という結果でした。授業後に同様に質問をすると、人数の比こそ変わりませんでしたが、授業を経て意見を変えた方も出ていました！授業の後に「ない方がいい」と答えて頂いた方からは、「今まではない方がよいかわからなかったが、この講演会で確信した」、「メリットが以前考えていたより大きいことが分かった」といった旨のコメントが寄せられました。一方で「わからない」と答えた方は、「電柱の有無の変化に気付きにくい」、「コストと規模の面で難点が多い」といったコメントが寄せられました。

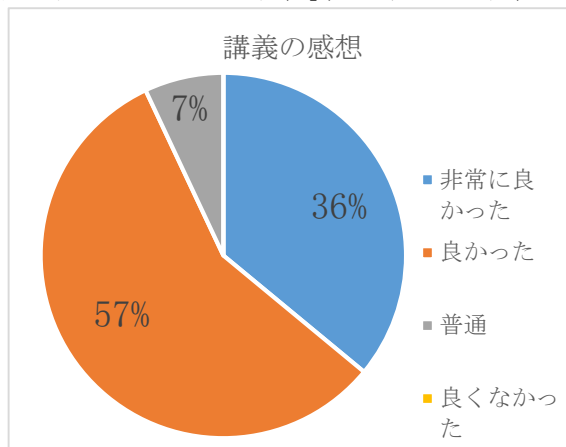
◎授業の感想 ～無電柱化に向けて更なる知識を～

「新しい知識が増えた」、「普段気にしていなかったことに気付けた」、「海外の電柱事情に興味深かった」といった、驚きを示す感想が寄せられ、中でも、「日本が無電柱化後進国であること」や「電線地中化の方法、具体例」が印象的だったというコメントがありました。さらに、「海外のもっと詳しい無電柱化事情」、「地区の特色に応じた無電柱化」、「日本で無電柱化が広がらない理由」、「電線の基礎知識」等、より詳しい知識に興味を示すコメントが多くみられました。

一方で、「無電柱化の良さは体感しないと分からない」、といったご指摘も頂きました。また、授業の後に無電柱化に賛成した方々からも、無電柱化に対するコストや難しさを心配する意見が多く寄せられました。

◎今後の展望

学生が広報を主とした活動を行う「無電柱化学生プロジェクト」という



電線地中化に関するコラム・情報を月2回メールマガジンで配信しています！

ぜひこちらもご登録下さい！ → <http://www.mag2.com/m/0000266000.html>



企画が進行中ですが、アンケートに答えて頂いた14人中4人の方に興味を持って頂きました。

この授業において得られたご意見をもとに、より伝わりやすく、より有意義な講演会・授業・広報を目指します。

◎総括

この授業の結果から考えるに、無電柱化について大学生の方々の認知度を高めるには、二つの方法が求められています。

まず私たちの主張の前提を理解して頂くために、電柱や電線等の基礎知識を、説明が理解しやすくなる程度の簡潔さで教えることです。そして、私たちの主張をしっかり掴みやすくするために、ただ無電柱化の説明を抽象的に行うだけでなく、具体例を多用したり、座学に留まらず無電柱化地域を実感したりするといった、よりリアル感を持った説明を行うことです。

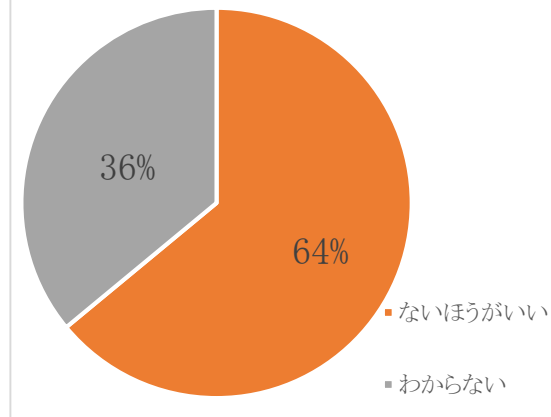
これらの事によって私たちの主張を浸透しやすくすることが、無電柱化意識の啓発に必要な事ではないのでしょうか。

説明の流れにおいては、まず電柱に関する「意外ではあるが知ったら驚くこと」を伝え、理解が進むと具体的な数字や手法など掴みやすい物事を添えて説明すると印象に残りやすいことが分かりました。

また、無電柱化のコストや過程におけるトラブルの詳細をはっきり説明することにより、無電柱化の問題点や解決の可能性について考えやすくすることも、大いに求められていることです。

今後、このアンケート結果を「無電柱化学生プロジェクト」に反映することを目指します！

電柱はあった方がいいですか？



↑ 講義風景

小池百合子(衆議院議員)・松原隆一郎(東京大学教授)著
『なぜ日本には電柱があるのか(仮)』PHP新書 2015年7月15日発売予定

日本の電柱の現状について感じる事を1500字程度で書いてお送り下さい、掲載させていただきます。自己紹介(お仕事、住所等)と顔写真を添えて下さい。お待ちしております！事務局

最新情報はHPで <http://nponpc.net/> フェイスブック <http://www.facebook.com/NPONPC>